

# 山形県鶴岡市の「多職種連携」の プロセスと地域づくり

鶴岡市 健康福祉部 長寿介護課

地域包括支援センター 所長補佐 叶野 真弓

鶴岡地区医師会 地域医療連携室「ほたる」

介護支援専門員・相談員 渡邊 田鶴子

# 本日のご紹介すること

1. 鶴岡市の概要
2. 鶴岡市の多職種連携の取り組み  
(地域電子カルテ「Net4U」の活用含む)
3. 地域づくりの取り組み

# 鶴岡市の概要

# 鶴岡市の概要

□ 人口：136,627人

(平成22年国勢調査速報値)

\* 毎年1,000人減少

□ 面積：1,311.51km<sup>2</sup>

\* 東北一広い面積、全国では7番目

□ 世帯数：45,514世帯

(平成22年国勢調査)

□ 高齢化率：30.4%

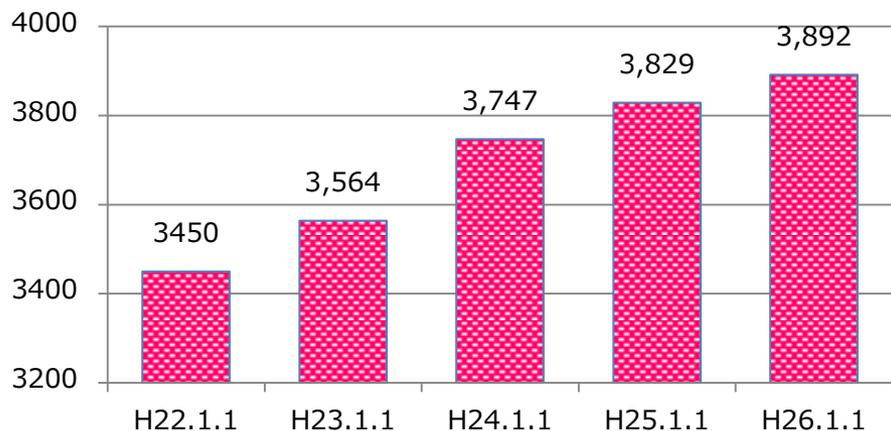
\* 高齢者（65歳以上） 40,689人 30.4%

\* 後期高齢者（75歳以上） 22,983人 17.2%

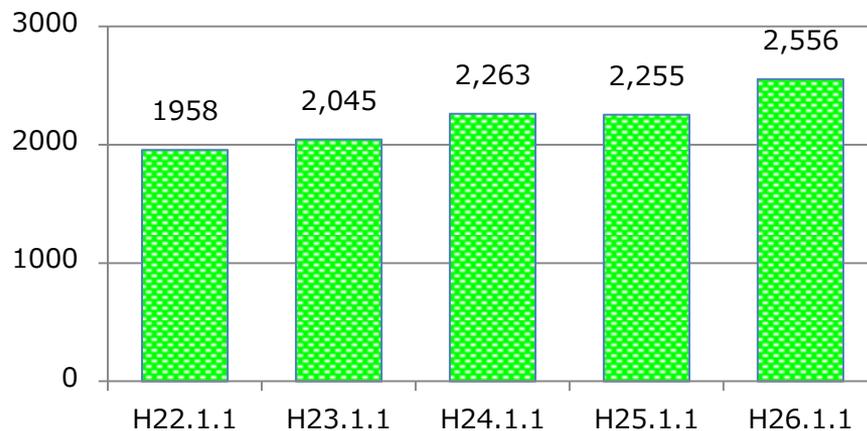


# 鶴岡市の要援護者の状況

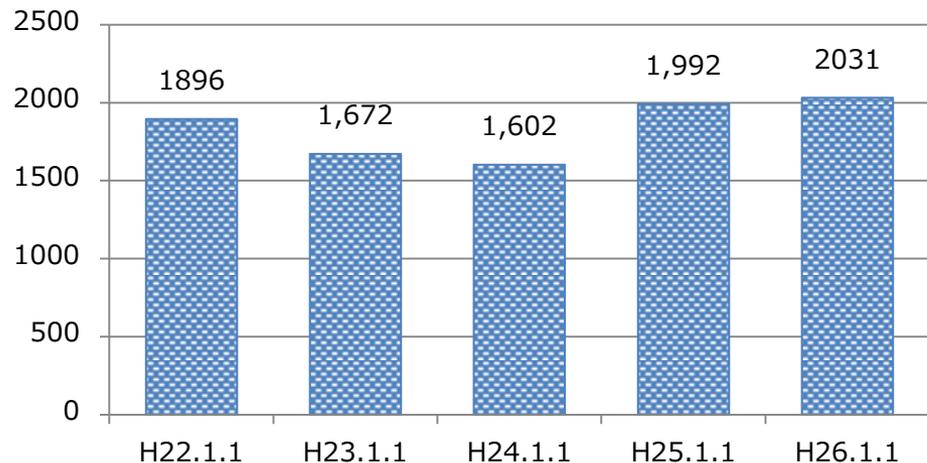
## 独居高齢者



## 在宅認知症高齢者



## 在宅ねたきり高齢者



## 地域包括支援センター相談件数

年度	総件数	うち、認知症に関する相談
平成23年度	14,770	434
平成24年度	19,362	620
平成25年度	25,399	1,364

# 鶴岡市の医療と介護の連携について

# 医療・介護の信頼と協働の連携づくり

南庄内緩和ケア

推進協議会

鶴岡地区医師会

地域医療連携室ほたる

多職種

信頼・協働

地域包括支援センター

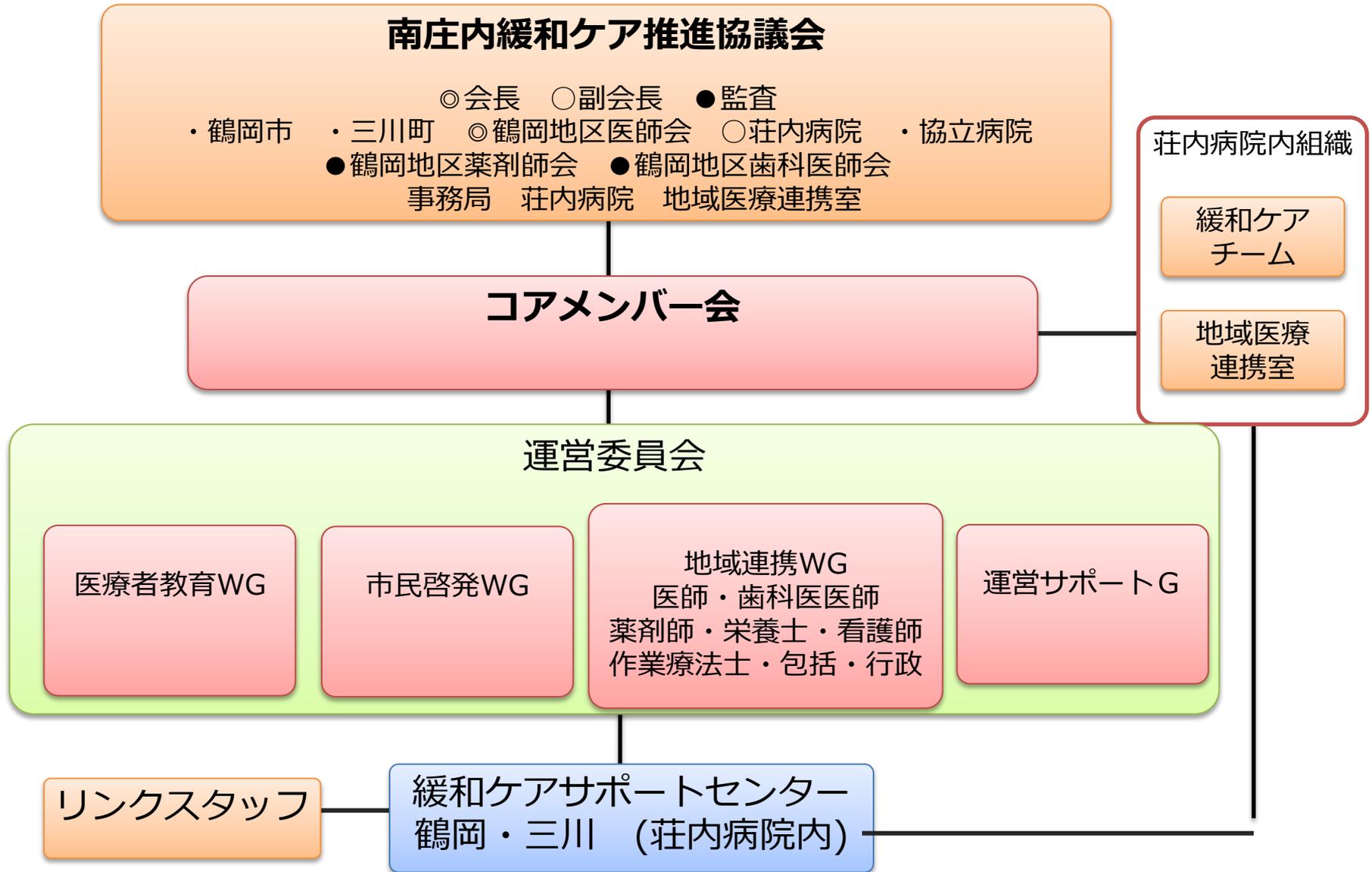
(9か所 市直営含む)

介護保険事業者連絡会

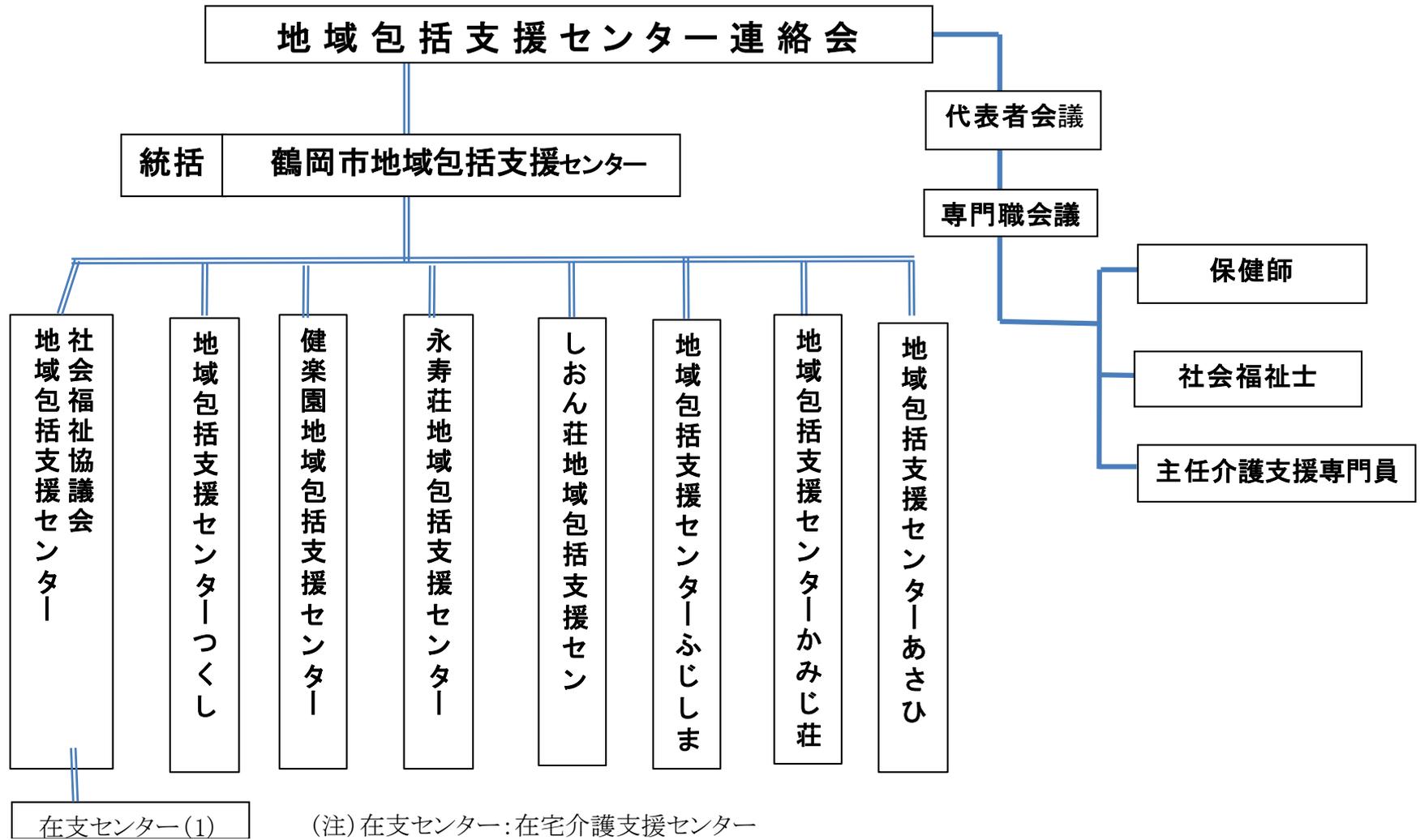
(ケアマネ・サービス事業者)

(市)

# 平成26年度 南庄内緩和ケア推進協議会 組織図



# 鶴岡市の地域包括支援センター 運営体制



# 平成26年度 鶴岡市介護保険事業者 連絡協議会組織体制

会長：医師会長

役員会の構成メンバー  
事業者名の下は事業所数

副会長 2名 ・池幸園:特養 ・ふたば:居宅介護支援

幹事8名

- ・(そよ風の森:訪問介護)
- ・(であい:訪問入浴介護)
- ・(ハローナース:訪問看護・訪問リハ)
- ・(福祉のひろば:通所介護)
- ・(協立リハ:通所リハ)
- ・(ニチイ:福祉用具)
- ・(こもれび:グループホーム)
- ・(ねずがせき:小規模多機能)

幹事2名

- ・(たかだて:居宅支援)
- ・(市包括:予防支援)

幹事3名

- ・(ふじの花荘:特養)
- ・(せせらぎ:老健)
- ・(阿部医院:療養型)

## 居宅支援事業者部会

居宅介護支援事業者 | 介護支援専門員分科会

34

介護予防支援事業者

9

## 居宅サービス事業者

訪問介護事業者部会

34

訪問入浴介護事業者部会

6

訪問看護・訪問リハビリテーション事業者部会

7

通所介護事業者部会

52

通所リハビリテーション事業者部会

9

福祉用具貸与事業者部会

12

認知症対応型共同生活介護事業者部会

18

小規模多機能型居宅介護事業者部会

7

## 施設サービス事業者部会

介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業者

16

介護老人保健施設・短期入所療養介護事業者

7

介護療養型医療施設・短期入所療養介護事業者

1

# 鶴岡市の医療・介護連携の役割

医療的  
側面

多職種協働

介護的  
側面

## 南庄内緩和ケア 推進協議会

- 市民啓発WG
- 医療者教育WG
- 地域連携WG

## 鶴岡地区医師会 地域医療連携室「ほたる」

- 合同ミーティングの開催
- 総合相談窓口の設置
- 訪問歯科診療の相談窓口
- 薬剤師会など地域の相談窓口の周知、活用
- 市民公開講座・各種研修会の企画・開催

## 地域包括支援センター

- 介護支援専門員支援
- 介護保険サービス事業所への調整支援
- 介護側面からの医療機関へのアプローチ

行政も協働し、バックアップしている

# 鶴岡市医療介護連携推進企画会議

## 急性期病院

- 荘内病院  
MSW
- 協立病院  
医療連携担当看護師

## 鶴岡地区医師会

- 地域医療連携室  
「ほたる」  
事務

## 介護分野

- 地域包括支援センター  
保健師  
主任介護支援専門員  
社会福祉士
- 居宅介護支援センター  
主任介護支援専門員

地域における医療・介護連携の課題抽出や対策の検討、具体的推進  
➡みんなで考えみんなで行う！！

# ボトムアップ、プロセス重視で



課題や目的の共有

# 鶴岡市における医療と介護の連携に関する取り組みの動き

※医療介護連携推進企画会議のメンバーは、  
 居宅支援事業所部会7名  
 庄内医療連携の会1名  
 緩和ケア運営会議地域連携ワーキング2名  
 (庄内病院1、協立病院1)  
 地域包括支援センター主任ケアマネ11人  
 で構成

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度				
					Net4Uのケアマネジャーに対する活用支援	Net4Uのケアマネジャーに対する活用支援	Net4Uのケアマネジャーに対する活用支援				
					在宅療養者のための連携シートの作成	在宅療養者のための連携シートの作成	在宅療養者のための連携シートの作成				
					庄内看護専門学校における医療と介護連携の講義 (23.5.26)	庄内看護専門学校における医療と介護連携の講義 (H24.5.24)	庄内看護専門学校における医療と介護連携の講義 (H25.5.23)				
				包括職員が緩和ケア庄内プロジェクトの運営メンバー	包括職員が緩和ケア庄内プロジェクトの運営メンバー	包括職員が緩和ケア庄内プロジェクトの運営メンバー	包括職員が緩和ケア庄内プロジェクトの運営メンバー				
			医師、薬剤師等7団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」(H22.3)	医師、薬剤師等7団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」(H23.3)	医師、薬剤師等7団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」(H24.3.4)	医師、薬剤師等7団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」(H25.2.23)	医師、薬剤師等7団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」(H26.2.22予定)				
			入院前報告書の作成 (H21.4)	入院前報告書の活用	入院前報告書の活用	入院前報告書の活用	入院前報告書の活用				
		第1回医療と介護の連携研修会H21.2.27 (ワーキング)108人	第2回医療と介護の連携研修会 H21.7.29 (シンポジウム)130人	第3回医療と介護の連携研修会H21.12.3 (ワーキング)112人	第4回医療と介護の連携研修会 H22.8.5 (事例報告とグループワーク)145人	第5回医療と介護の連携研修会H22.11.24 (事例報告とグループワーク)119人	第6回医療と介護の連携研修会 H23.8.4 (ロールプレイ)117人	第7回医療と介護の連携研修会H24.11.22 (事例報告とグループワーク)	第8回医療と介護の連携研修会 H24.8.2 (シンポジウム)181人	第9回医療と介護の連携研修会H25.11.21 (事例報告、グループワーク)190人	第10回医療と介護の連携研修会 H23.88 (事例報告とグループワーク)167人
医療機関との連携方法のまとめ作成	医療依存度の高い人の受け入れ施設一覧表の作成	※医療と介護の連携研修会開催準備会議 (H20.12.4、12.19)	医療と介護の連携研修会開催準備会議	医療と介護の連携会議と名称を変更し医療介護に係る全体的な検討会議と位置づけた。	医療と介護の連携研修会開催準備会議 (医療連携拠点室ほたるメンバーになる)	医療と介護の連携研修会開催準備会議	医療と介護の連携研修会開催準備会議				
医療機関との連携方法のまとめ作成連携方法調査(医療機関)	医療介護連携に係る実態調査(病院看護師、ケアマネ)	医療依存度の高い入所者の状況調査(介護施設)	医療介護連携実態調査(病院病棟看護師)	医療機関連携状況調査(医療機関)	介護支援専門員実態調査(介護支援専門員)	主治医連携状況調査(介護支援専門員)					

在宅主治医と介護支援専門員との意見交換会 (H25.11.26)

# 鶴岡市の医療と介護の連携について

ほたるの活動

# 行政、歯科医師会、薬剤師会との定期的なミーティング

- 地域医療連携室「ほたる」主催
- 1～2か月に1回開催



- 各団体の取り組み、新たな情報等の共有
- 連携の課題等を共有し、対策を考える

## 鶴岡地区医師会

- 会長・副会長・地域医療連携室「ほたる」室長
- 地域医療連携室「ほたる」スタッフ

## 鶴岡地区歯科医師会

- 会長、副会長ほか

## 鶴岡地区薬剤師会

- 会長、連携担当者

## 行政

- 庄内保健所 ・ 三川町地域包括支援センター
- 鶴岡市長寿介護課、地域包括支援センターつるおか

# 多職種および市民対象の研修会等の 企画・運営



	開催日	研修会の内容	参加者数
1	H25.7/19	「地域に根ざした難病患者支援」	115名
2	9/12	「認知症高齢者の理解とケア」	215名
3	11/29	「うつ病の理解と介護うつ予防」	130名
4	12/18	「施設に勤務する看護師が集う会」	15名
5	H26.3/23	市民公開講座「認知症を正しく知ろう」	312名
6	6/15	「穏やかな最期を迎えるために 知っておきたいこと」	133名
7	9/4	「多職種チームで支える End of life care」	118名
8	H27.3/22	「認知症を正しく知ろう」 ～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために～	



# 各種研修会等への支援(協働)

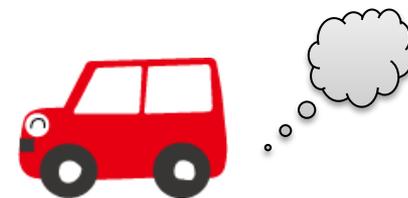


	開催日	会の名称	形態
1	H26.6/24 第1回	南庄内在宅医療を考える会	共催
2	8/7 第1回	医療と介護の連携研修会	共催
3	10/2	緩和ケア多職種研修会	共催
4	10/12	市民健康のつどい	参加
5	11/17 第2回	南庄内在宅医療を考える会	共催
6	11/20 第2回	医療と介護の連携研修会	共催
7	2/22 第3回	南庄内在宅医療を考える会	共催

そのほか、地域で組織されている様々な会、研修会、講演会などへの参加・協力



# 出張勉強会のコーディネート



## 【地域のニーズ】

- 事業所単位での小規模な勉強会の開催
- ケアマネジャーの医療に関する知識の底上げ

## 【対象】

- 介護支援専門員、看護師、介護福祉士など事業所で働くスタッフ
- 地域住民

## 【講師】

- 歯科医師、薬剤師、認定看護師、リハビリスタッフ、ほたるスタッフなど



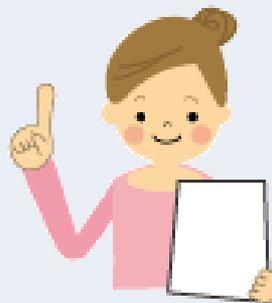
## 対象

- ・介護老人福祉施設
- ・介護老人保健施設
- ・居宅介護支援事業所
- ・有料老人ホーム
- ・訪問介護事業所
- ・お茶のみサロン

ほか

## 内容

- ・精神疾患の基礎知識（統合失調症・うつ病・認知症）
- ・ポジショニング・体位交換のポイント
- ・高齢者介護施設における感染対策
- ・拘縮のある方の更衣介助
- ・薬の基本的な理解
- ・訪問服薬指導について
- ・口腔ケアについて
- ・訪問歯科診療について



周囲の目を気にすることなく**聞きたいことが聞け、共有できる。**  
講師との今後の繋がりもできる。

# 介護サービス事業所の実態調査 ～医療依存度と受入れの現状～

## ➤ 対象施設：

鶴岡市・三川町の入所・宿泊のサービスを提供する  
介護施設、介護事業所 105か所（実施：102か所）

## ➤ 調査期間：H25.6.3～H26.2.21

## ➤ 質問事項

1. 各種医療的処置が必要な人の受入れ状況
  - ・ 経管栄養（胃ろう、腸ろう、経鼻、ポンプ）・CVポート・透析
  - ・ 末梢輸液・ストーマ・人工呼吸器・気管切開・摂食嚥下障害
2. 感染症に対する受入れとその基準
3. 喀痰吸引が必要な人の受入れ、喀痰吸引等研修への参加状況
4. 看護師の配置状況
5. 看取りの実施状況
6. 認知症、精神疾患の受入れ状況

The image shows a sample of a survey form with Japanese text and checkboxes. The form is divided into several sections, each with a title and a list of items to be checked. The text is small and difficult to read, but the structure is clear. The form is titled '介護サービス事業所の実態調査' (Survey of the Actual Situation of Nursing Service Facilities) and contains various questions related to the facilities' operations and services.



# 訪問診療等に関するアンケート調査



- **対象医療機関**：鶴岡市、三川町の医療機関 94か所  
(回答：91か所 97%)

- **調査期間**：H26.9.16～H26.12末

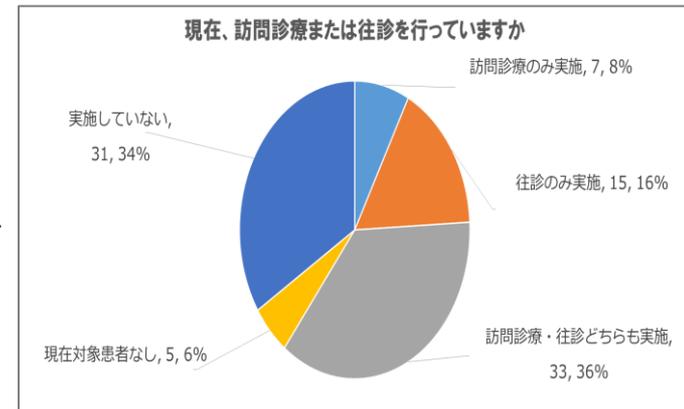
- **内容**

- 『訪問診療等に関するアンケート』

現在訪問診療または往診を実施しているか、どのような条件が満たされれば訪問診療ができるとお考えかについて、選択項目と自由回答欄を設ける

- 『訪問診療等対象患者住所記載用紙』

平成26年6月の1か月間に訪問診療・往診を実施している患者宅の住所（町名まで）または入所されている施設名を記載していただく





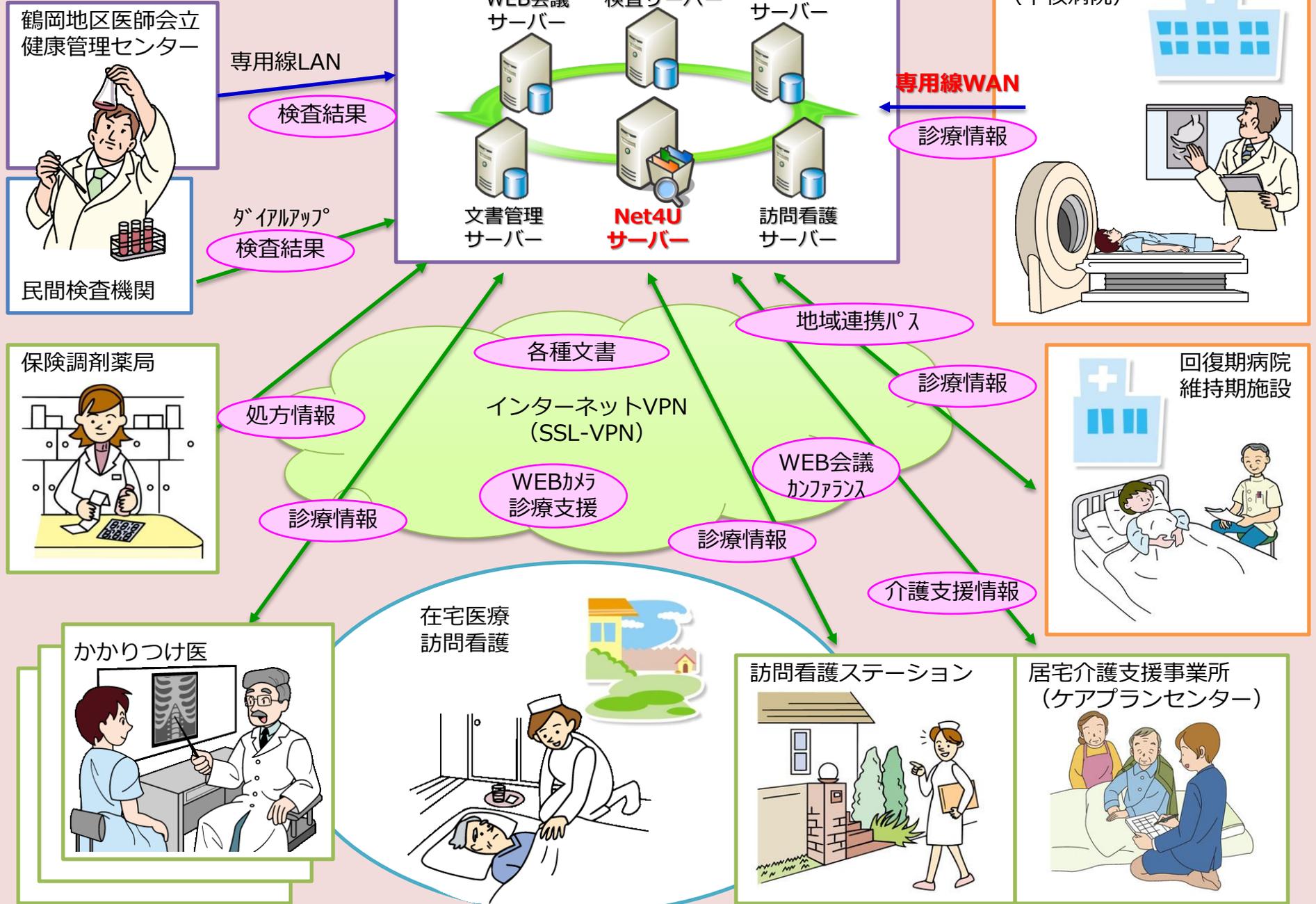
# Net4Uの普及・啓発

## Net4Uとは？

地域内の病院、診療所、訪問看護ステーション、調剤薬局、介護事業所等が患者（利用者）さんの情報を共有することができる、地域包括ケアに対応したヘルスケア・ソーシャル・ネットワーク・システム。

施設や職種を問わず、患者に関わる全ての医療者・介護者がフラットに情報を共有し、コミュニケーションを可能にすることで、顔の見える地域包括ケアをサポートしています。

# 鶴岡地区医療介護情報ネットワーク概要図



# 在宅医療におけるNet4Uの活用





患者情報



SH 01935663

生年月日  
年齢 60歳  
性別 女  
住所  
電話番号  
治療中の病名 自院 / 全て

ID Link

編集

共有ユーザー一覧

あかね薬局  
中村内科胃腸科医院  
三原皮膚科  
荘内病院  
ハローナース

共有カルテ | 診断名 | 検査結果 | 参照履歴 | 患者サマリ

カレンダーの表示/非表示

日別	月別		
10	水		
15	火		
14	月		
13	日		
12	土		
11	金		
10	木		
09	水		
08	火		
07	月		
06	日		
05	土		
04	金		
03	木		
02	水		
01	火		
2010年11月			
30	日		
29	土		
28	金		
27	木		
26	水		
25	火		
24	月		
23	日		
22	土		
21	金		
20	木		

所見 | 処置 | 処方 | 検査 | 文書 | メモ

所見

訪問看護

ハローナース  
阿部忍看護師

9:00定期訪問  
BP96/S KT35, 8℃ P124 SPO2-測定不可  
無呼吸20秒あり。冷感・チアノーゼ著明  
端座位になっているが、傾眠あり。発語も少なく、声かけて返答・うなずきあり。  
「俺が行くなって行ったから、いるんだ」と旦那様話され、いないと寂しい、と。

所見

緩和ケア  
専門医

荘内病院  
奥山慎一郎麻酔科医師

あかね薬局のしのだ先生  
連日の訪問おつかれ様です。  
12/7下肢浮腫悪化などの記載から輸液減量を提案させていただきました。私のカルテの  
尿量評価ありがとうございます。浮腫だけでなく尿量や減量に対する本人家族の不安感

所見

在宅主治医

中村内科胃腸科医院  
中村秀幸消化器内科医師

午後3時、下記の指示書を書きました  
メインの補液を40mlから20mlへ指示通りに減らします  
夜間のセレアタの増量の時間帯はハローさんの都合に任せますので「適当に」お願いします

所見

薬剤師

あかね薬局  
篠田太郎薬剤科・薬局薬剤師

エルネオパ1号1000MLの追加処方を持参し9時半訪問。（阿部さんと同時訪問）  
前日夕方からセレネース・アタPを0.3ML/時間へ増量後、美千子さんは「寝られた」  
口唇は白く、（11時頃）オシロイ（時間）オシロイ（時間）オシロイ（時間）オシロイ（時間）オシロイ（時間）

# 患者情報共有のしくみ

- ▶ Net4Uにおける患者情報共有の設定（患者IDの紐付）は、施設間で「招待状」を送り、それを「承諾」することで、システムが自動的に設定を行います
- ▶ 従いまして、患者IDの登録を事務局が行う必要がありません。

Step 1 : カルテの作成



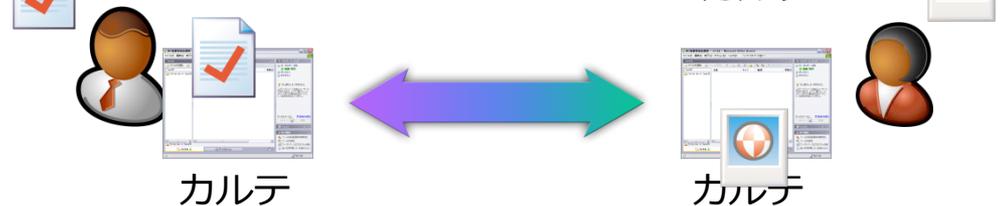
Step 2 : 紹介状の送信



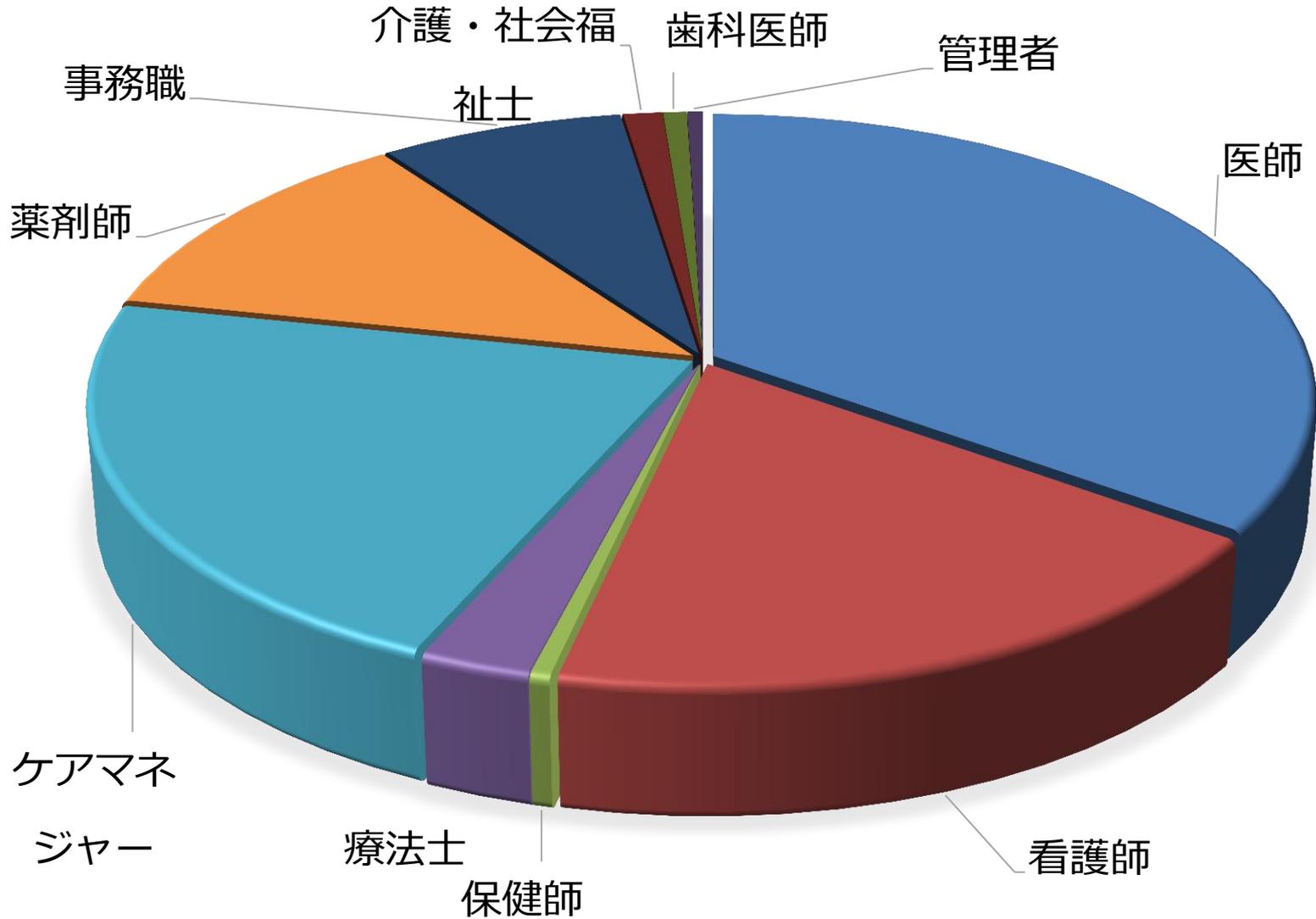
Step 3 : 紹介状の受理



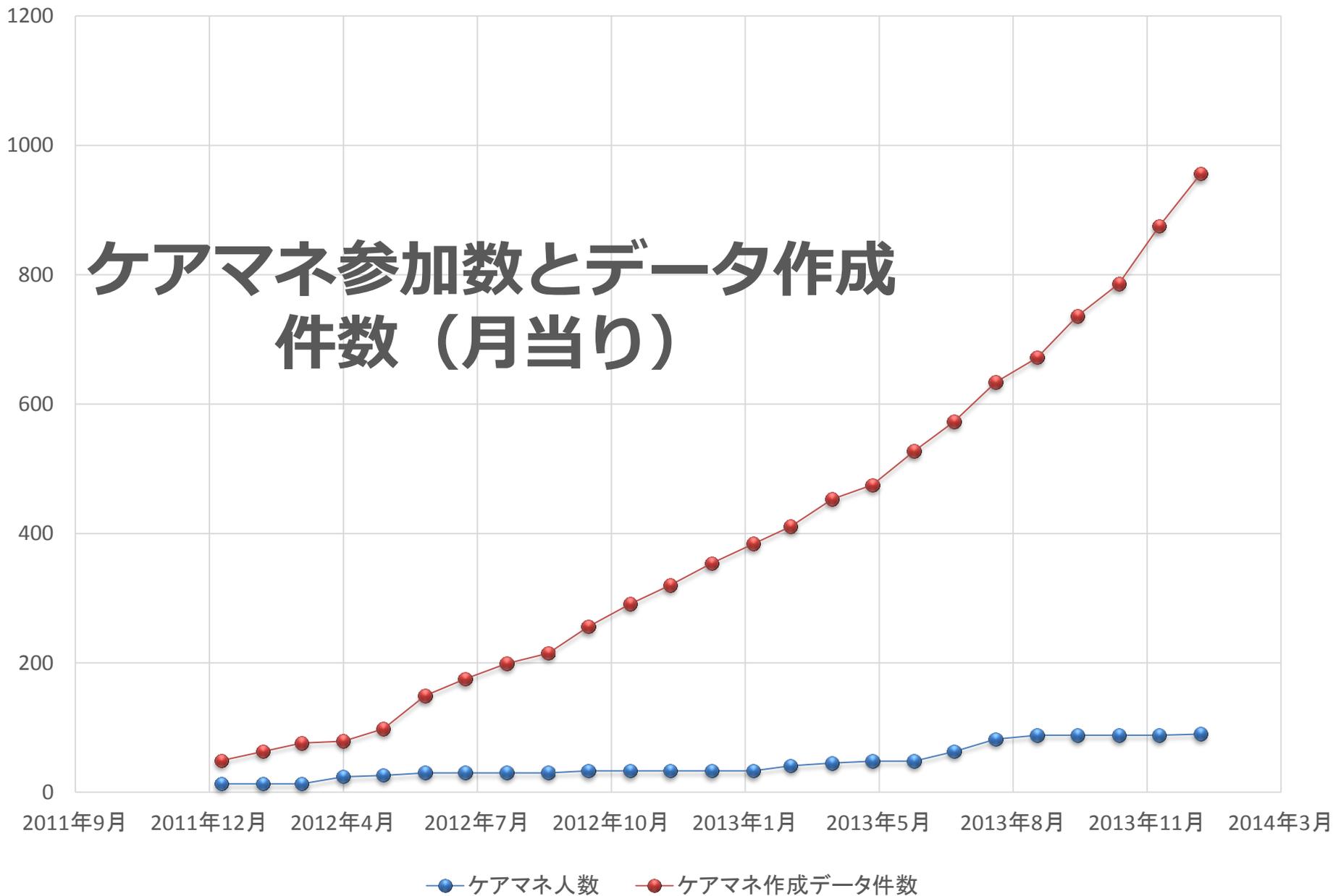
Step 4 : カルテの共有開始



# 参加職種内訳



# ケアマネ参加数とデータ作成 件数（月当たり）



# 実際の活用状況(ケアマネジャー)



主治医や訪問看護師との連携で活用することが多い

## 【手順】

1. ケアマネは、利用者に対してNet4Uで自分たちも情報共有することを伝える。
2. 主治医に対して「Net4U情報共有依頼書」を用いて連絡を取り、その後に主治医からの「招待」により情報共有開始。

\* 最近では、主治医だけでなく訪問看護師から直接「招待」というケースも増えている

## 【Net4Uを使用して、変わったこと】

- 各サービス事業者との情報共有がすぐでき、早めに対応ができるようになった。
- 主治医の先生と身近なやりとりができるようになった。主治医との連携が取り易くなった。
- 床ずれの状況や薬剤情報が把握しやすい。
- 利用前よりも本人の状況がより詳しく迅速に把握できるようになった。

# かかいつけ医の声



ケアマネさんは驚く程足繁く利用者を訪問し、主治医が知らない沢山の情報を教えてくれます。

それは医療に直接関わる情報のこともあれば、介護するご家族の時間的、肉体的、精神的負担感など様々です。  
(ときにはその家の経済的なことも！)

主治医である私が、それらの情報に助けられたことは枚挙に暇がありません。まさに在宅医療の新しいパートナーを得たという思いです。



# 「ほたる」の今後の展望



「ほたる」は、多岐にわたる企画を実現することで、地域のさまざまなリソースを「繋ぐ」役割を果たしている。



その役割が出来るのも、さまざまな事業の中で顔の見える関係が構築され、信頼関係の醸成へと繋がっていくからこそである。



地域包括ケアシステムの中で役割分担を更に認識し、地域の拠点として様々な組織との融合性を持った活動を展開していきける組織作りを目指す。

# 地域づくりの取り組み

高齢者がいきいきと暮らし続けられる  
地域社会の実現

# 基本目標

可能な限り住み慣れた地域で安心して生活できる支援体制の整備

- 在宅医療と介護の連携の推進
- 地域ケア会議の実施
- 日常生活を支援する体制の整備
- 認知症支援策の充実
- 高齢者の住まいの安定的な確保
- 在宅介護サービスの充実・強化

いきいきと自立した日常生活を営むための環境の整備

- 健康づくり・介護予防の推進
- 生きがいづくりと社会参加の促進

# 保険者の果たすべき役割

市民ニーズ・地域特性の把握

ランドデザインの明確化

政策・施策の立案と実施

# 地域づくりの課題

市民啓発

日常生活圏域が広く、現状の地域資源では、在宅医療・介護の体制が組みにくい

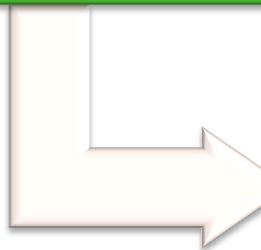
効果的な事業を推進するための協議会の設置

# 地域づくりは人づくり

人づくり



人のつながり



地域づくり

